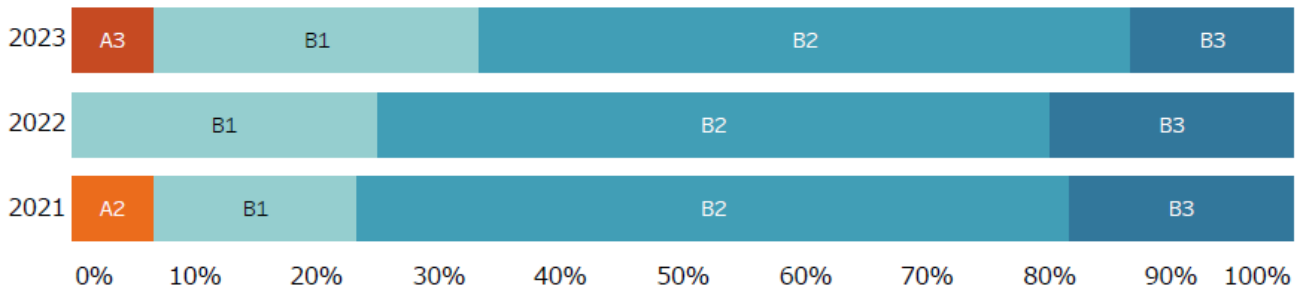


2023年 早稲田 算数（第1回）

過去3年の思考コード別出題割合は次のようになります。高度な思考力が求められるB2の問題を中心に、例年通りハードな問題が並びました。大問3「速さ」と大問5「図形の移動」は情報量が多いため、ていねいに読み取って状況をとらえていく必要がありました。また、大問2(3)「回転体」や大問4「タイルを通る対角線」の問題は、多くの受験生が触れたことのある問題と思いますが、キッチリ理解できていたかどうかで差がついたと思います。



大問1は、例年通り一行題の構成でした。(1)は800分の7と置き換えて計算をします。(2)は、ニュートン算でした。麻布、東邦大東邦など、今年もいろいろな学校で見かけました。毎年、どこかで出題されるので、確認しておきたい単元の1つです。(3)は、総当たり戦をテーマにした論理・推理の問題でした。「Bは引き分けがない」点に注目して、表を使って整理したらあっさり見つかった受験生もいたと思います。勝ち3点、負け2点、合計16点となる点に着目し、つるかめ算を利用することで、引き分けが2組あることがわかります(AとD、CとD)。すべて得点しておきたい問題です。

大問2は、例年通り図形の一行題が並びました。頻出分野とあって、多くの受験生が準備をしてきたと思います。(1)は、OPを結び、正三角形OPB、二等辺三角形OAPに着目します。(2)は、相似な直角三角形を利用します。(3)も、多くの受験生が触れたことのある問題と思いますが、全く手が出なかった受験生も多く、差がついたと考えられます。底面積の比に着目すると、「早」「田」のどちらも上段は左から1:3:5:7:9となることがわかります。

大問3は、速さの問題でした。文字の情報量が多いため、ていねいに読み取って図に置き換え、わかることをどんどん求めて整理していきます。(1)は、列が橋を通る「通過算」となります。(2)は、求めた情報に1つでも誤りがあるとミスしてしまうため、注意が必要です。(2)まではとっておきたいです。

大問4は、タイルを通る対角線の問題でした。多くの受験生が1度は触れたことがある問題だと思います。長方形の縦・横の長さが互いに素となる場合、「縦の長さ+横の長さ-1」がタイルの数となります。このことを知っていても、「理解できていたか」どうかで、(2)、(3)は差がついたと思います。大問5は、移動する針の動きをとらえる問題でした。回転の中心が「頭」「先」となる場合がある点に注意します。(1)①、②は取っておきたい問題です。

例年通り、骨太な問題が並ぶ構成でした。特に「比」を自由に活用できる力は必須となります。あくまでも予想ですが、大問2(3)、大問3(3)、大問4(3)、大問5(3)を落としたとしても、およそ7割程度には達することができると考えられます。